

MAP 1 「さいたま市の花」の名がつく さくら草通り

全国で9番目の「歩行者専用ショッピングモール」として昭和57年(1982)にできました。通りの名称は公募により決定しました。季節感あふれる樹木やブロンズ像などが置かれ、買い物や散歩する市民で賑わっています。



▲さくら草通り

MAP 3 下にい下に。大名行列も一休み 浦和宿本陣跡



▲木曾街道六十九次のうち浦和宿の版画(英泉画) (浦和宿)

江戸時代に中山道が整備され、浦和宿は日本橋を出て3番目の宿場になりました。本陣1軒、脇本陣3軒、旅籠15軒、家数200軒余り、宿の長さ約2キロ、街並み約1キロ、1,230人ほどが暮らしていました。



▲浦和宿本陣跡にある明治天皇行在所の石碑

【本陣跡】

本陣には約1,200坪の敷地に、約222坪の母屋、宿場の重要な施設である問屋場・高札場などがあり、代々星野権兵衛家が勤めていました。

加賀前田家が宿泊し、皇女和宮も休息しています。現在は明治天皇氷川神社行幸の折、行在所となった石碑のある仲町公園となっています。

MAP 2 鎌倉文士に 浦和絵描きの原点 うらわ美術館

昭和初期の耕地整理と鉄道の電化により、浦和はより住みやすい住宅地へと変貌し、関東大震災の影響も加わり、多くの文化人が移り住み活躍し「鎌倉文士に浦和絵描き」という言葉が生まれました。

うらわ美術館は、「郷土にゆかりのある作品」を収集し、「本をめぐるアート」をコレクションの柱に、平成12年(2000)春に誕生した都市型美術館です。

夕方5時(金土は夜8時)まで開館しており、会社帰りや買い物ついでに、気軽にアートの世界を楽しむことができます。月曜休館。



▲うらわ美術館内の様子

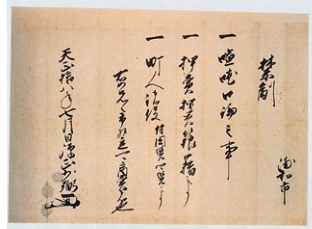
MAP 4 月六回、市の賑わい 二・七市場跡

浦和の市は、室町時代から始まったとされ、2の付く日は「慈恵稲荷」周辺、7の付く日は「玉蔵院」周辺で商いが行われ、昭和の初めまで続いていました。

この場所は、市神の祭られた石祠、定杭、開催を示した天正18年(1590)の古文書が残る貴重な史跡です。市は周辺農村の生産物資の売却の機会であると同時に、生活物資購入の機会でもありました。



▲二・七市場跡



▲浦和市の古文書(禁制)喧嘩口論や押売などを禁止したもの

中山道 浦和宿を 歩く

約3.3km

JR浦和駅を起点に、江戸時代30余りの大名による参勤交代が行き交った中山道浦和宿を散策します。

街道沿いにひっそりと残る史跡や寺社、新しい浦和の街並みなどを探訪します。

初版発行日…平成19年(2007)3月

編集・発行…浦和区文化の小径づくり推進委員会



浦和区文化の小径づくり推進委員によるガイドと浦和の風景が楽しめます!

※YouTubeにリンクします。 ※通信料は自己負担となります。



MAP 5 鷹狩りの御殿も緑 常盤公園

慶長年間、徳川家康が民情視察を兼ねた鷹狩りの際、休息、宿泊のため、この地に浦和御殿を設けました。

その後、明治26年(1893)には、浦和地方裁判所・検察庁が置かれ、昭和51年(1976)に常盤公園となりましたが、「赤レンガ囲堀」にはその面影が偲ばれます。

毎年11月、「中山道浦和宿二七の市」が開催されます。



▲常盤公園の様子 ▲市場通りにある野菜売りの女性像



MAP 6 浦和宿要の古刹 玉蔵院

真言宗豊山派の古刹で、創建は平安時代と伝えられ、戦国時代に印融上人が盛んにしました。

山門は江戸時代後期の優れた建築。庫裏前の「守護待不入」の石杭は、天正期の寺の力を示す歴史的記念碑です。

地藏堂の木造地藏菩薩立像は、平安時代後期の地藏菩薩です。

▼玉蔵院の山門



MAP 7 満月にウサギの御座す 調神社

平安時代以前から続くといわれる浦和屈指の古社で、『延喜式神名帳』にも記載されています。

調の文字は、御調物を納める倉庫から発展した神社ということで、この文字をあてられた説が有力です。

また、調が月と同じ読みから、月待信仰に結びつき、社頭、社殿、稲荷社(旧本殿)などに「うさぎ」の彫刻等があります。

初詣、お宮参り、夏越の大祓い、七五三、十二日まちななどで親しまれています。

境内林は、樹齢数百年といわれる榎、棕、銀杏等の大木により、大切な緑の空間となっています。

稲荷社(旧本殿)は享保18年(1733)に造営されたことが内部に残された木札から分かっています。平成25年から29年度にかけて元の姿に修復されました。正面、脇障子の兎の彫刻など見事なものです。



▲調神社

column

うなぎのまち

江戸時代、浦和周辺には沼地が多く、川魚が多く生息する水郷地帯で、魚釣りを楽しむ行楽客で賑わっていました。その行楽の人々に沼地でとれたうなぎを出したのが始まりで、味の良いたが評判になり、中山道を行き来する人たちがわざわざ足を運んだということです。

